

【社会】 <中学校 第2学年>

1 結果のポイント

- 「地理的分野」については、統計資料等からその変化や理由を正しく読み取ったり、地理的事象やその特色を調べる手段を選択したりする力をみる問題の正答率は75%を上回っている。他方、日本各地域の気候の特色をグラフから読み取る力をみる問題、自然災害が起こりやすい原因を考え表現する力をみる問題や、大陸から見た日本の位置を四方位を用いて理解しているかをみる問題の正答率は40～60%程度であり、グラフ等の統計資料を関連付けて読み取る技能や、地理的事象の原因を考え表現する力は十分身に付いているとはいえない。
- 「歴史的分野」については、江戸時代の代表的な文化遺産や政治の内容、明治時代の近代化に関する基本的な用語や人物名についての理解をみる問題の正答率は65%を上回っている。また、日清戦争直前の日本、中国、ロシアの関係を資料から考える力をみる問題や、近代産業を支えた労働の厳しさを資料から読み取り表現する力をみる問題の正答率はいずれも75%を上回っている。他方、大日本帝国憲法が制定された経緯や、その特色についての理解をみる問題の正答率は50%程度であり、歴史的事象の意味を時代の出来事と関連付けたり、時代背景とともに理解する力は十分身に付いているとはいえない。

2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

<問題> ① の2 (2) ④ の2

— (略) —。特に梅雨^{つゆ}や秋雨^{あきさめ}の時期には降水量が多く、夏から秋には西太平洋^{にしたいへいよう}の熱帯海^{かい}域^{いき}で発生した (B) が接近し、①各地に大きな被害をもたらすことがあります。冬には、日本海側を中心に雪が降り、世界でも有数の②豪雪地帯^{ごうせつ}となっています。

(2) 文中の (B) に当てはまることばを、ア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 津波^{つなみ} イ 高潮^{たかしお} ウ 台風 エ 高気圧

2 一郎さんの班では、我が国が近代化していくようすを「立憲政治のはじまり」というテーマで発表することにし、次の年表をつくりました。

年代	主なできごと
1880年代	・国会開設が約束される ・ A

年表中 A に書かれたできごとについて、一郎さんは次のような説明をしました。

- ① 2月11日に天皇が国民にあたる形でおこなわれました。
- ② ドイツ (プロイセン) などの制度を参考にしました。
- ③ 当時アジアで唯一の立憲制国家となりました。

一郎さんの説明を読んで A にあてはまる文を書きなさい。

<結果> ① の2 (2) 正答率88.9% ④ の2 正答率47.0%

<分析>

① の2 (2) は、「熱帯海域で発生し、夏から秋にかけて日本に接近するのが台風であることを理解しているか」をみる問題である。台風については、ニュース等生活の中で話題になることもあり昨年度と同様、高い正答率を示した。基本的な用語等の知識はよく身に付いている。

④ の2 は、「大日本帝国憲法がつくられた経緯やその特色を理解しているか」をみる問題である。大日本帝国憲法の発布が、立憲政治にかかわることであり、どのような時代背景の中で発布された

のかという理解ができていないと答えられない問題である。無解答が26%程度あるのは「大日本帝国憲法」という用語は理解しているが、その時代のできごとや歴史の大まかな流れと関連付けて理解されていないためであると考えられる。単に用語を理解させるだけでなく、時代背景等と関連付けながら取り扱い、歴史的事象の意味を理解できるようにする指導が求められる。

(2) 「資料活用の技能・表現」の力をみる問題の例

<問題> ①の2(4) ②の2(4)

(4) 文中の下線部②に位置する都市の気温と降水量をあらわしたグラフをア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。 [グラフ・略] * 気候グラフは釧路、金沢、名古屋、名護のものを提示。

(4) 課題(Ⅰ)について明らかにするために、太郎さんは野菜全体・トマト・いも類の生産量に関する次の資料3を手に入れました。この資料を読み取って述べた文として最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。 [資料3および選択肢・略]

<結果> ①の2(4) 正答率42.2% ②の2(4) 正答率90.8%

<分析>

①の2(4)は、「日本海側の気候の特色を理解し、年間降水量と気温の変化を示すグラフが選択できるか」をみる問題である。誤答として多かったのは、平均気温が最も低い釧路のグラフを選択したものであった。問題文の「日本海側」「豪雪地帯」という言葉から、寒い地方であると予想したもの、冬の降水量が多くなることに着目できていないためであると考えられる。あるいは、折れ線グラフと棒グラフの組み合わせから、気温の変化と降水量の変化を読み取れなかったことも考えられる。グラフ等の基本的な統計資料については、授業で繰り返し扱い、比較や関連の視点で読み取らせる等、その活用技能を習熟させる指導を一層充実させていくことが求められる。

②の2(4)は、「サウジアラビアの農業生産の変化を、グラフから正しく読み取ることができるか」をみる問題である。基本的なグラフの読み取り方については、よく身に付いている。

なお、「世界の国々」の学習については、取り上げる国を学校ごとで選択し、統計資料等様々な資料を活用して国家規模での地域的特色を調べる視点や方法を身に付けるようになっており、ここで学習したことが他の国を調べる時にも転移・応用できる力の育成が求められている。昨年度と同様、これらの問題の正答率はすべて75%を上回っており、各学校において、地理的分野「地域の規模に応じた調査」における学び方を学ぶ学習の充実が図られつつあるといえる。

(3) 「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> ①の2(3) ③の4

(3) 文中の下線部①のように、日本では毎年のように大雨による洪水などの自然災害がよく起こります。そのおもな理由を、下の資料をもとに、河川の長さや流れの傾き（流れが緩やかか、流れが急か）の二つの点から、簡潔に説明しなさい。ただし、書き出しは「日本の河川は…」とします。 [図表・略]。

次の3枚のカードのまとまりを考えて、タイトルを付けたいと思います。当てはまるタイトルとして最も適切なものを下のア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 商人の活躍 イ 幕府の滅亡 ウ 産業の発達 エ 農民の生活

<結果> ①の2(3) 正答率62.3% ③の4 正答率67.5%

<分析>

①の2(3)は、「日本で大雨による洪水等の災害が起こりやすい原因を河川の特徴と結び付けて、適切に考えているか」をみる問題である。日本の河川の長さや傾きの二点から説明するよう指示しているが、日本の河川が世界の大河川と比較して「短いこと」と「傾きが急であること」を、大雨による洪水等の災害と関連付けて考え、適切に表現する力が十分身に付いていないと考えられる。昨年度も同様の傾向であった。また、11.3%が無解答であったことから、様々な社会的事象の意味追究をおこなう問題解決的な学習を大切に、自分の考えをノートにまとめたり、発表したりする指導の継続を図る等、考えを表現する力の育成を一層充実させることが求められる。

③の4は、「江戸時代について表した資料を読み取り、その特徴を適切に表現することができるか」をみる問題である。この問題では、「機織り」「農具の改良」「越後屋の店先」に関する絵図などの資料を示し、これらのまとまりにどのようなタイトルを付けるかを考え判断する設問で、一つ一つの事象が何を表しているのかということだけでなく、3つの事象が共通して何を表しているのかということまで考え判断することを求めている。誤答としては「商人の活躍」「農民の生活」が多かった。このことから、社会的事象を比較や関連、総合の視点で考える力を育成していくことが求められる。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

基礎的・基本的な内容の確実な定着を一層図るという観点から、指導内容を厳選し、細かな事象を網羅的に羅列して知識の伝達に偏った指導計画になっていないか見直しを図る。

- ・地理的分野においては、「地域の規模に応じた調査」の学習において、学び方を学ぶ学習が1年生から段階的、系統的に位置付いているかを見直す必要がある。
- ・歴史的分野においては、人物の働きや歴史上の出来事等が、歴史の流れや世界の動き等と関連付けて理解できるようになっているか見直しを図る。

(2) 指導方法の工夫改善

問題解決的な学習の充実を図ることで、社会的事象に対する生徒の興味・関心を高め、自ら課題を見出し、自ら学び自ら考え、課題を解決する力を育てることができるよう見直しを図る。

- ・地理的分野においては、グラフ等の統計資料等から地域的特色を調べる視点や方法を身に付けさせ、地理的事象を空間の広がりの中で考える力を育成することや、地図の読図技能等を育成する指導を充実させる。
- ・歴史的分野においては、歴史的事象の意味追究をおこなう問題解決的な学習を一層工夫・改善し、事象の意味を時代背景とのかかわりの中で考えたり、多面的・多角的に考える力を育成することを大切にする。
- ・地理的分野、歴史的分野ともに、調べて考えたことを自分なりに文章にまとめたり、意見を述べたりする等、適切に表現する力を育てる必要がある。
- ・授業改善については、県の「学力向上プロジェクト」における各事例も参考にしたい。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・教師が準備した資料だけでなく、生徒自らが収集した資料をもとに、課題解決をするような学習ができるように、図書館や社会科資料室等の文献や資料を整備したり、インターネット等で資料が収集できる環境を整備したりして、授業以外の時間にも生徒が自ら学べる環境を整えていきたい。さらに、博物館や郷土資料館等の活用にも心がけたい。
- ・生徒相互の学び合いの質を高めていくことが大切である。互いに学び合うことのよさが自覚できるように、仲間に自分の意見を安心して述べることや、仲間の意見を真剣に受け止めることを常に大切に、学習集団の育成に努めたい。